



琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	授業を観る3つの目
Author(s)	岡崎, 威生
Citation	琉球大学大学教育センター報 = University Education Center Bulletin(12): 66-66
Issue Date	2009-03
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41406
Rights	

授業を観る3つの目

「情報科学演習」担当 岡崎 威生(工学部)

大学の共通・専門教育は属性や動機の違いから価値観が異なるが、各々の改善取り組みから得た知見は相補的な役割を果たすと考え、双方から振り返ってみる。

共通科目「情報科学演習」は情報リテラシ教育で、取り巻く社会環境や知識の変化が著しい特徴を持つ。PC 未経験時代では、①発展系課題で進度の速い学生へ対処、②詳細資料を作成し遅留学生の底上げ、③蓄積した配布資料を体系化し講義教本への昇華に取り組んだ。PC 経験時代においては、④情報リテラシの意味変化に応じた内容再構築、⑤個人の関心が活かせるプレゼンテーションを主題にすることに取組み、次の重要性に気づいた。1点目は学生の講義への期待の把握である。学生の期待は多様で講義内容の適合は単一方法で図れない。各人への完全適応は困難だが、努力継続が大事である。2点目は何かを講義から獲得させたか確認することである。獲得する物は同一である必要はない。獲得したことを実感させることが重要である。

専門科目「確率及び統計」においては、①教科書に忠実な講義計画の立案、②講義

資料の事前配布と課題提出による演習の代用、③学生に課題解答を板書させ添削しその過程を共有、④講義をビデオ撮影し Web 配信により確認機会を与えることを試み、以下の重要性を知った。まず講義難易度の調整をせず教授方法の工夫に専念することである。易化による学生の達成感低下と、教育課程構成への影響が理由である。次に講義を観る第3の目を意識することである。学生に伝えることを考える担当教員の目、講義から得るものを探す受講学生の目、最後はお互いの伝達成立を確認する第3者の目である。何を教えるかの明確化は当然で、学生の立場になったニーズ汲み取りも必要だが、講義完成度を測るのは第3の目の役割であろう。教員が3つの視点を持つことは容易でないが、撮影映像を見てその重要性を痛感した。

教員が伝えたいことと学生が学問領域に関連して関心を持っていることを明確にして講義を実践し、相互作用を確認する第3の目を培う。講義成果は学生に達成感を与えたかを判断基準にする。以上がこれまでの結論である。